

## 環境倫理シンポジウム

# 「自然を愛する」とはどういうことか

2011年9月17日(土) 13:00~18:00

大阪府立大学・学術交流会館 定員 200名 入場無料

講師：森岡正博、瀬戸口明久、福永真弓

自然や生命に関する議論は、感情論に流されやすく、意見対立の原因となります。冷静な視点で、「自然を愛する」ということを考えてみませんか。

### このような話題が出たらどう答えますか。

- ・シカ、サルは害獣として駆除すべきか、保護されるべきか。
- ・人も動物もいのちの価値は同じではないか。
- ・クジラは食べよう、希少なジュゴンを守ろう！
- ・人の役に立たないゴキブリやカは根絶させよう！



環境倫理学では、「なぜ自然を守るのか」や「動物の命をどうとらえるべきか」などを考えてきましたが、環境倫理学が実際の行動につながることはまれでした。しかし環境倫理学の課題は多く、特に動物の「いのち」の捉え方に関する意見対立は深刻なままです。「自然を愛する」気持ちを動機として自然保護を行う人がいるように、愛などの感情は人々の倫理の根底を支えますが、従来の環境倫理学では感情の問題はあまり扱われてきませんでした。本企画では自然保護の根底となる「理由」を問い直します。



### 申込み・問合せ

当日に会場に来ていただければ自由に参加できます。座席や当日に無料配布する資料は数に限りがありますので、座席と資料を確実に確保したい方は、事前に下記Eメール宛で参加者の名前をお知らせください。先着 200名まで確保します。問い合わせは、Eメールまたは電話でどうぞ。

Eメール [karin@nature.or.jp](mailto:karin@nature.or.jp)

電話 大阪自然環境保全協会 06-6242-8720

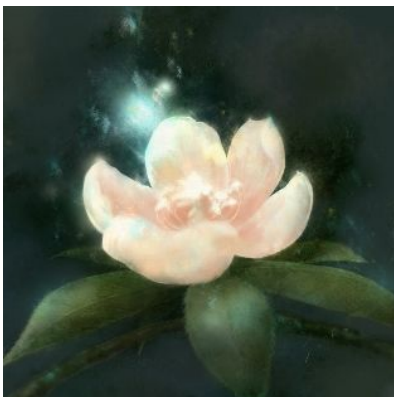


illustration: Saeko Inui

### プログラム

- 12:00 開場、展示
- 12:30 受付開始、資料・質問用紙配布
- 13:00 開会挨拶、基調報告：本企画にいたる経緯とアンケート結果(道下雄大)
- 13:20 講演1：自然環境に対する感情は保護に値するか(森岡正博)  
講演2：自然保護の歴史から考える環境倫理(瀬戸口明久)  
講演3：人と自然のかかわりの現場から捉える環境倫理(福永真弓)
- 14:50 休憩
- 15:10 パネルディスカッション  
司会：森岡正博 パネリスト：瀬戸口明久、福永真弓、常俊容子、道下雄大
- 17:00 質問用紙への回答、自由討論
- 17:50 閉会の挨拶(森岡正博)

※休憩所で自然環境に関するミニ芸術展併設。

**主催**：(社)大阪自然環境保全協会 / 大阪府立大学・現代生命哲学研究所 / 里環境の会  
(企画担当：(社)大阪自然環境保全協会・道下雄大)

## 講演内容とパネリスト紹介

### 森岡正博 「自然環境に対する感情は保護に値するか」

私たちは自然環境や動植物の保護を多かれ少なかれ好ましく思っている。しかしその同じ私たちの多くが、牛や豚などの家畜を食べている。自然を愛するとは、生命を愛するとはどういうことか改めて考えてみたい。

(大阪府立大学人間社会学部教授、現代生命哲学研究所所長。『無痛文明論』、『生命観を問い直す エコロジーから脳死まで』など著書多数。哲学を人々の生活と関連付けながら、わかりやすい言葉で語り続け、生命学という新たな分野を切り開いた。)

### 瀬戸口明久 「自然保護の歴史から考える環境倫理」

「自然保護」とは何だろうか。歴史的に振り返って考えてみたい。「自然保護」は 19 世紀後半に生まれた。でも過去の人々が守ろうとした「自然」は、現在の「自然保護」で大切にされるものとは違っていただろう。さまざまな「自然保護」の事例を見ることで、守るべき「自然」とは何か考えてみたい。

(大阪市立大学大学院経済学研究科准教授。『害虫の誕生』の著書や外来種問題の歴史的経緯に関する諸論文で知られる。生物多様性に関する思想を様々な事例と比較検討して考察することで定評がある。)

### 福永真弓 「人と自然のかかわりの現場から捉える環境倫理」

時に愛はやっかいだが、それでも魅力的で、人は思いもよらない問題の解決法をそこから見出すこともある。現場のフィールドワークで出会った、自然の「ありうべき」姿、「のぞましさ」を語る人びとの言葉をひもときながら、人びとと自然の〈あいだ〉、人 びとの〈あいだ〉について、そして「のぞましさ」、「よさ」ということそのものについて考えてみたい。

(大阪府立大学 21 世紀科学研究機構准教授。『多声性の環境倫理:サケが生まれ帰る流域の正統性のゆくえ』の著者であり、『環境倫理学』の編者。人と自然との関わり現場で生きる人々の声を分析し、現場から環境倫理学の新たな枠組みをつくることを提唱している。)

### 常俊容子

(大阪自然環境保全協会・ナチュラリスト入門講座、NOB 里山委員会所属。主にシカと森林、人との軋轢の問題に関して様々な活動を企画・運営。大阪府シカ保護管理計画、イノシシ保護管理計画などのワイルドライフマネジメントにも関わっている。)



### 道下雄大

(大阪自然環境保全協会理事・環境倫理談話会担当、里環境の会ネットワークグループ代表、大阪大学総合学術博物館研究員。甲南大学文学部非常勤講師。専門は民族植物学で日本における人と自然との関わりを研究している。環境倫理談話会や里環境の会で対話中心型の勉強会を企画・運営している。)

## ※基調報告・講演内容は事前に寄せられたアンケートに応じて多少の変更があります。

アンケートは自然環境に関する多様な考え方を把握し、相互理解を深めるためのものです。誰でも回答でき、匿名も可能です。当日無料配布する冊子に掲載します。ぜひご協力をお願いします。アンケート内容について知りたい方はカリンプロジェクトのホームページをご覧ください。申し込み欄の E メールでお知らせください。

カリンプロジェクト URL <http://karinproject.sakura.ne.jp> (右図は QR コード)



## 大阪府立大学への交通アクセス

・地下鉄御堂筋線「なかもず駅(5号出口)」から南東へ約 1,000m、徒歩約 13 分。

・南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約 500m、徒歩約 6 分。

※大学入口から会場の学術交流会館へはさらに徒歩 7 分程度かかります。大学入口に地図案内あり。会場に一般用の駐車場はありません。詳細は大阪府立大学のホームページもどうぞ。

